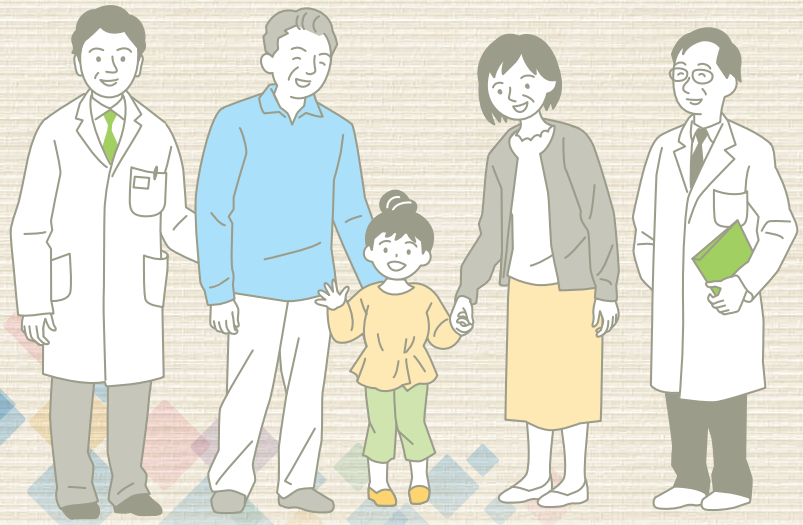
貼付剤による パーキンソン病治療

ハルロピ®テープを 使用されている患者さんへ

| 監修 |

上用賀世田谷通りクリニック 院長 **織茂 智之** 先生

東京慈恵会医科大学 脳神経内科 教授 **鈴木 正彦** 先生



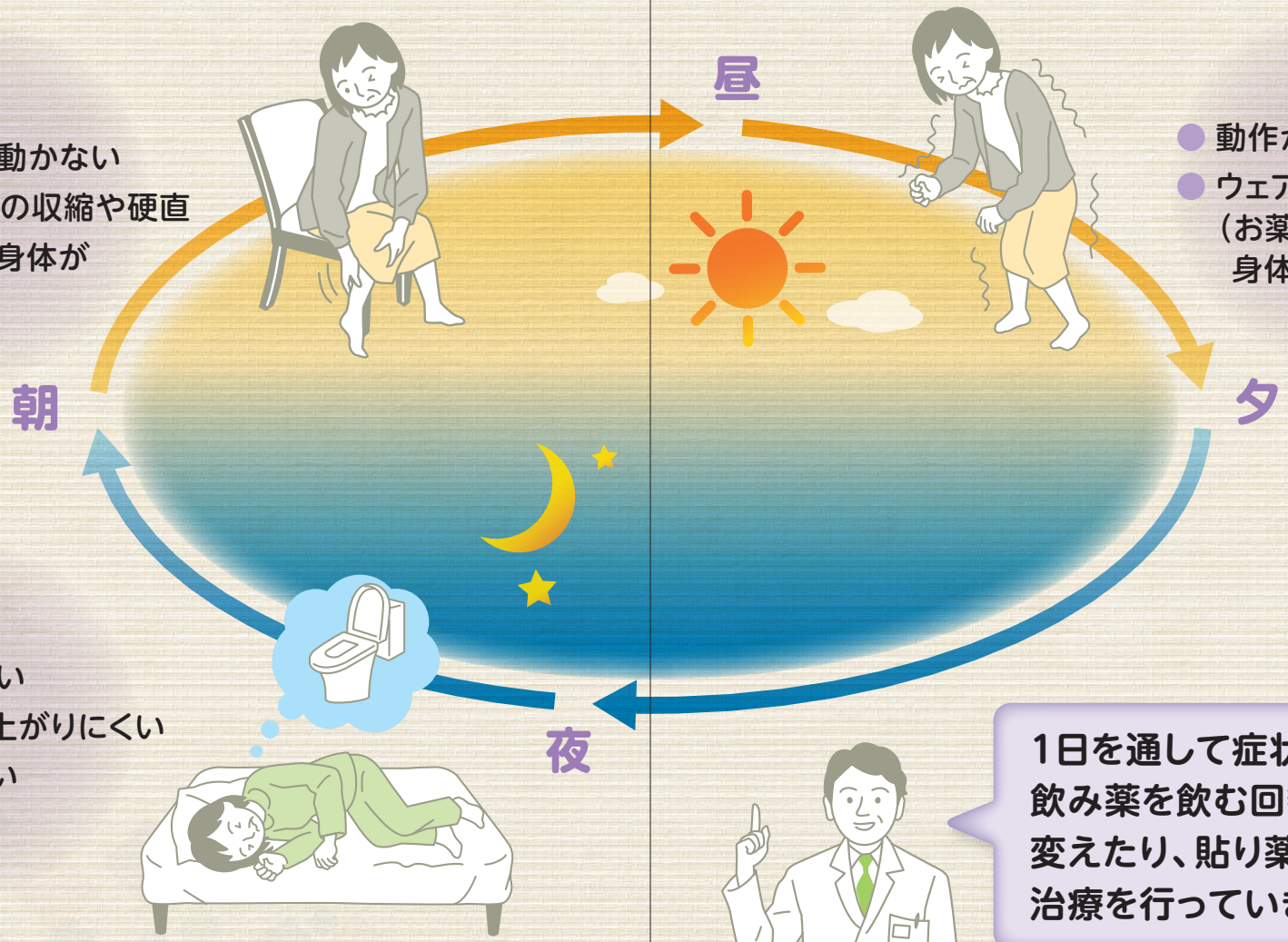
HRP0068
KKC-2022-00262-2
作成年月：2022年7月作成
作成：協和キリン株式会社
製造販売元：久光製薬株式会社 発売元：協和キリン株式会社

KYOWA KIRIN

1日を通した 治療の重要性

パーキンソン病では、時間帯によってさまざまな症状がみられます

各時間帯の 主な運動症状



- 脚がこわばって動かない
- 痛みを伴う筋肉の収縮や硬直
- 朝起きたときに身体が動かない

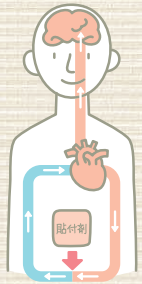
- 動作がゆっくりになる
- ウェアリングオフ（お薬の効果の切れ目に身体の動きが悪くなる）

- 寝返りがしづらい
- ベッドから起き上がりにくい
- トイレに行けない

1日を通して症状を抑えるために、飲み薬を飲む回数やタイミングを変えたり、貼り薬を使用して、治療を行っていきます。

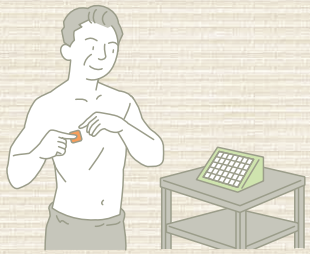
ハルロピ®テープについて

皮膚に貼るお薬です



皮膚に貼ると少しずつお薬の成分が吸収されます。貼るお薬なので、飲み薬の使用が難しい人でも使用できます。

1日1回、貼りかえます



1日1回の貼りかえで効果が確認されたお薬です。1日経ったら、前日のお薬をはがしたことを確認してから新しいお薬に貼りかえてください。

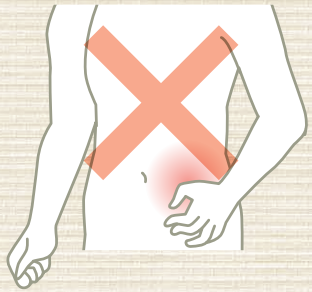
ハルロピ®テープの副作用に関する注意

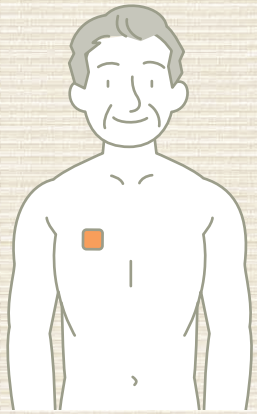
お薬の使用中に次のような症状があらわれた場合、医師または薬剤師に相談してください。

- 突然眠り込んだり、強い眠気が出るなどの症状
- 幻覚や妄想、興奮、さく乱、せん妄などの精神症状
- 高熱、意識障害、手足の震えや体のこわばり、ショック症状等の悪性症候群の症状
- 病的な衝動（ギャンブル依存、買い物依存、過食、性的衝動など）を抑えられない症状
- 悪心、嘔吐等の消化器症状
- めまい、立ちくらみ、ふらつき等の起立性低血圧の症状
- お薬を貼った場所がかゆくなる、赤くなる、かぶれるなどの皮膚症状

皮膚症状を防ぐ工夫

❶ 赤みやかゆみ、傷などのある部位は避けて貼ります

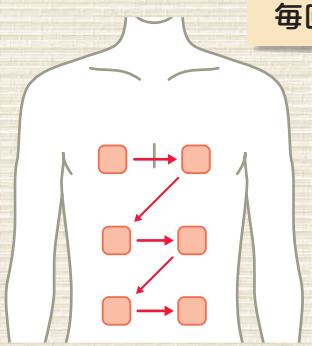




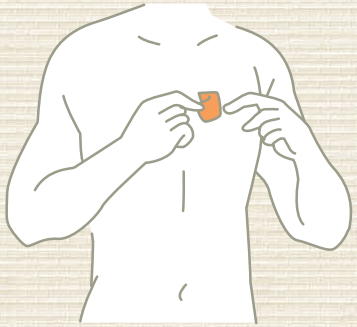
❷ 毎日、貼る場所を変えます

貼る場所は
毎回変更する

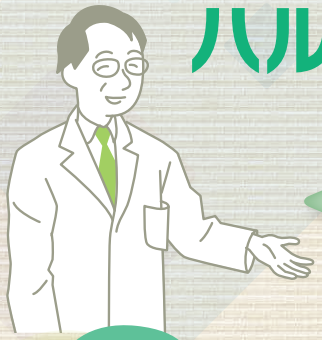
同じ場所に続けて貼らないようにしましょう。



❸ はがすときはやさしく、ゆっくりと皮膚を刺激しないように注意してはがします



ハルロピ®テープをしっかりと貼るための4つのポイント

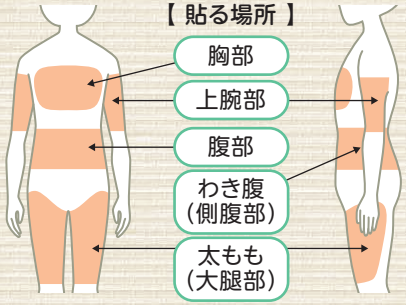


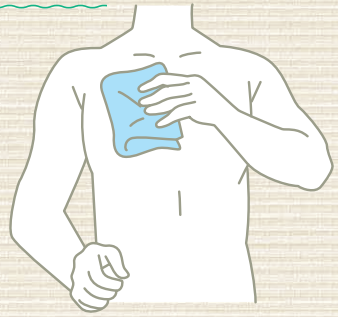
1日を通して症状を抑えるために、貼り薬はしっかりと貼り続けることが大事です。
以下のポイントをおさえて、貼り続ける工夫をしていきましょう。

Point 1

貼る場所をよく拭いて水分や汗を十分に取り除きましょう。

〈ハルロピ®テープを貼る場所〉





汗をかいてはがれやすく感じる場合は、
貼る場所を工夫してみるのもよいでしょう。
下記の部位は比較的汗をかきにくいといわれています*。

上腕部(二の腕)　太ももの内側

乾燥する季節には普段から肌の保湿を心がけましょう。

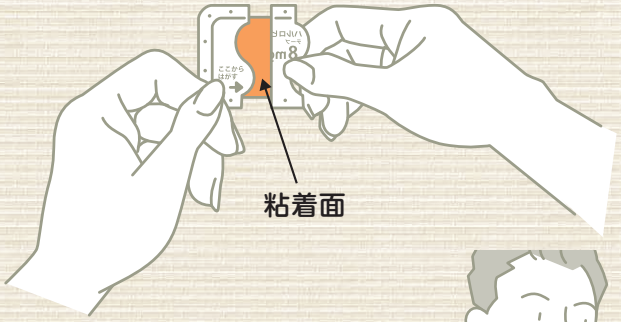
*European Journal of Applied Physiology (2021) 121:109-125

Point 2

関節の近くなど、動くところは避けて貼りましょう。

Point 3

フィルムをはがしたら粘着面には触らないようにしましょう。



Point 4

貼った後は手のひらでお薬を押さえ、しっかりと皮膚に密着させましょう。

※お薬がはがれてしまったときは、新しいお薬を貼ってください。次の貼りかえはもともとの貼りかえ時間に新しいお薬と貼りかえます。